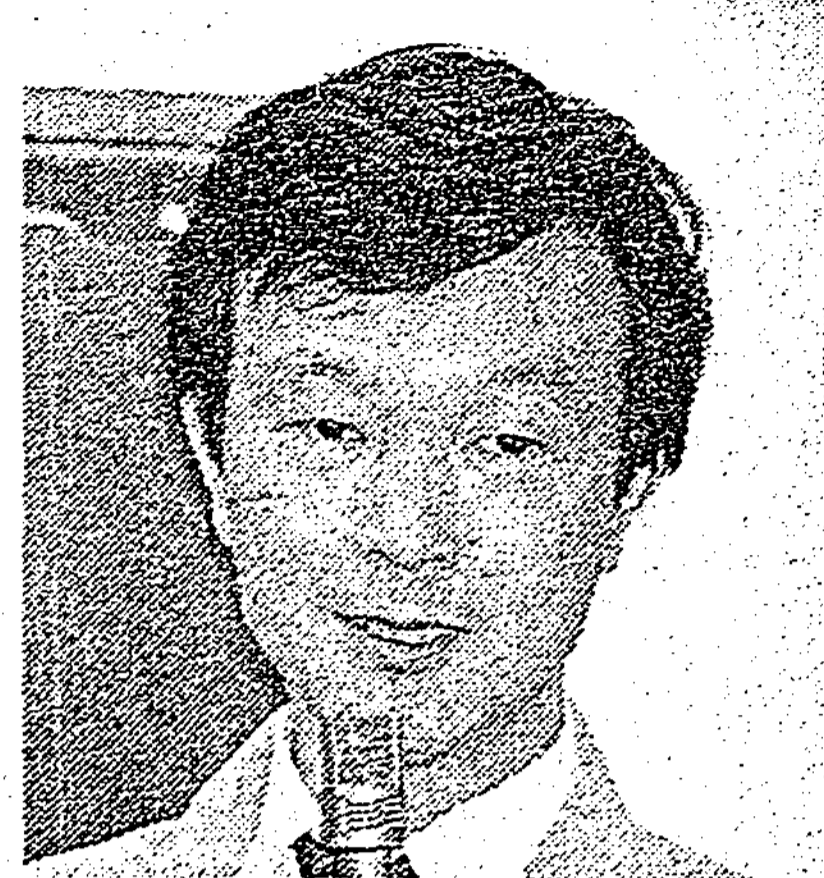


# 国際宇宙移動大学から

[2]



科学技術庁研究開発局  
宇宙国際課長補佐

田中 護史氏



東大理学部教授

牧島 一夫氏



宇宙科学研究所高エネルギー  
天体物理学第二部門助手

井上 一氏

## 宇宙の国際協力

国際協力という時に、忘れてはならない三つの原則がある。第一に相手の国の事情をよく考えてあげること、第二に相手の国に何を求めるのか、つまり自分の国の事情もよく知ること。そして第三に

## 日本の宇宙観測計画

日本の宇宙開発は実用衛星を打ち上げる宇宙開発事業団と、科学観測を行う宇宙科学研究所の二系列がある。私は文部省の宇宙科学研究所でX線天文衛星「きんが」に携わってきた。M-3S II

## ブラックホールの話

ブラックホールというのはとても難しいのですが、このように考えて下さい。物があると、引っ張り合う力の動きで空間が閉じ、光も出てこれない。そのような井戸の底のようなものがブラックホール

## 銀河系の中心にも存在

先ほど話したように光も引き込んでしまいますので、ブラックホールは全く見えませぬ。ただ、星がブラックホールに引き込まれる時には強いX線を発するので、見えます。白鳥座X-1

## 月に地震計の設置も

月に地震計を置く計画や、太陽系の生きた化石といえる小惑星を地球に持ち帰る計画も、宇宙のことを勉強すると、

## 三つの原則忘れずに

相手と自分の国との国際協力、Iなどの名称も、少年団をつなぐもの、例えば条約、協定、言葉などがそれだ。特に、言葉は国際協力を進める上で極めて重要。NASA、軌道プラットフォーム建設など、将来の宇宙開発計画を進める上で、日本だけでなく

1などが考えられています。ただ、これらの星はブラックホールと考えた方が都合がいいと言っただけで、存在そのものはまだ確認できていません。私たちの銀河系の中心部にもブラックホールがあると考えられています。皆さんがこのブラックホールを発見して下さい。

発している。火、木、土星では寒くて氷になっている。地球だけが空気、酸素に恵まれ、植物が茂っている。宇宙に大きな好奇心を持って考えると、足元の地球のことも考えてほしい。地球に水や緑があることがどんなに素晴らしいことが分かるだろう。



発行所  
十勝毎日新聞社  
〒080 帯広市東1条南8丁目  
電話=編集②2121、広告③2323、総務・販売④2222  
©十勝毎日新聞社 1987